

令和6年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和7年3月7日（金） 午後1時30分～3時00分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 4人出席

委員長 川尻 秋生

副委員長 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 小玉 理恵子

委員 島立 理子

（教育委員会）

齋木生涯学習部長

文化財課 君塚課長、蚊谷室長、森本課長補佐

（事務局）

加曾利貝塚博物館 神野館長、小池副館長、長原主査

郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

4 議 題

（1）令和7年度の予算と事業予定について

（2）その他

5 議事概要及び議事結果

（1）令和7年度の予算と事業予定について

加曾利貝塚博物館と加曾利貝塚新博物館整備室、郷土博物館から、それぞれの令和7年度の予算と事業予定について説明し、各委員から意見が出された。

（2）その他

文化財課から博物館の新規登録について報告を行い、委員から意見が出された。また、次回の開催予定について、事務局から説明を行った。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会。会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していること、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げた。続いて齋木部長が挨拶を行い、新しく委員となった川尻委員の挨拶のあと、新委員長・副委員長の選出を行った。齋木部長の進行で、委員の互選により新委員長に川尻委員を、副委員長に広田委員をそれぞれ選出した。

以後、川尻委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和7年度の予算と事業予定について

< 説明 >

加曽利貝塚博物館と加曽利貝塚新博物館整備室、郷土博物館から令和7年度の予算と事業予定について説明した。

< 質疑応答等 >

川尻委員長 ただいま事務局から説明があったが、委員から質問や意見をいただきたい。

広田委員 加曽利貝塚の新博物館整備について、見直しをして延床面積を4,000㎡にしたということだが、もとの面積を教えてください。

蚊谷室長 令和5年の当初は4,800㎡の延床面積を想定していた。

広田委員 もう一点、アドバイザー業務はどのような発注方式になるのか。

蚊谷室長 プロポーザル方式となる。庁内の職員で構成するプロポーザル選定委員会を設けて、7名の選定委員による合議で最優秀事業者を決定する。

広田委員 プロポーザル方式は公正な方法だとは思いますが、その審査委員が市の職員というところがちょっと引っ掛かる。どういう専門の方々で審査をするのか。

蚊谷室長 審査委員は、生涯学習部長を委員長として、委員の構成としては、PFI事業を所管する総合政策局の政策企画課長。また、都市アイデンティティの一つでもあるので都市アイデンティティ推進課長。公共施設であるため財政局の資産経営課長。また、公共工事の積算に詳しい都市局の建築管理課長。あと所管の加曽利貝塚博物館長と担当課長の私である。

広田委員 アドバイザリー事業の発注というのは、川上にあたる事業なので、そこでどういう視点で能力を量るかは重要な部分である。役所発注の時に役所の方々が審査をすることで、どこまで能力審査ができるのかということが、問題になっているようだ。その辺はぜひ検討していただきたい。今回はそういうメンバーということなのだろうが、例えば、県の発注でいうと、県立図書館の発注の時には、建築の審査員と図書流通の審査員とで全く評価が分かれたということもあった。その時にプロポーザルの課題にどうやったら適正に能力審査ができるのかということが問題となった。課題に対し、どこまでの判断ができる審査員構成になっているかということは、どの場合でも問題になる点なので、その辺がプロポーザルの難しいところだと思うので、今後行うようであれば検討してほしい。

鈴木委員 延床面積の見直しについて、実際にはどういった部分を縮小したのか。

蚊谷室長 縮小したのは、主にバックヤードといわれる職員が使用するスペースである。また、収蔵庫についても、特別収蔵庫がやや過大なスペースをとっていたこともあり、100㎡に満たない部分ではあるが縮小した。その他、共用廊下の幅やエレベーターの面積なども縮小している。また、講堂の広さも200人想定から180人想定に減らしている。そういった少しずつの積み重ねで800㎡の減をしている。

鈴木委員 全体的に基本的な機能は変えず、少しずつ縮小しているとのことだが、展示室に関してはあまり変わっていないということか。

蚊谷室長 展示室はあまり手を入れないという方針で考えている。

鈴木委員 バックヤードを縮小するという事は、展示機能を損なわないためには重要であるが、職員のスペースがあまり減ると仕事の環境が悪化することもあるので、あとは什器などで工夫するとよい。また、廊下に関しては余裕を持っていたと思うが、大体こうした場所に荷物を置いてしまうということが多いので、それを避けるようにすればスペースは十分あるのではないかと思う。

あと、以前個別に鉄筋コンクリートなど建設方法について問い合わせをいただいたが、それについてはどうなったか。

蚊谷室長 昨年の夏から秋にかけて、建設費がかなり高いということから少しでも建設コストを下げられないかを内部で検討していた。博物館は鉄筋コンクリート造が大原則だと思うが、一部を鉄骨造にするとか、プレハブの別棟を検討するとかの試行錯誤をしていた。その際に鈴木委員に、そういった方法を採用することが博物館として適切なのかどうかというところを相談した経緯がある。

結論を申し上げますと、やはり博物館は展示品を収蔵するという機能もあるので、しっかりと温湿度管理ができる鉄筋コンクリート造が適切だということになった。今、想定している建物は、鉄筋コンクリート造としている。

鈴木委員 事例についても尋ねられたが、重量鉄骨造と兼用している博物館は全国にはある。博物館の建設方法について法令的なものは存在しないので、鉄筋コンクリートでなければならないということはない。これは国の関係者にも確認してわかったことである。その辺は今後整理が必要だが、望ましいのはやはり、保存や安全の意味で鉄筋コンクリート造にすべきと判断されたのだと思う。

島立委員 加曽利貝塚博物館の研究紀要について、前回も聞いているが、本年度刊行の51号からデジタルデータとして公開予定ということだが、もう発行されたのか。

神野館長 今年度末に刊行予定である。

島立委員 千葉県立中央博物館でも今年度末から研究紀要をPDFのデジタルデータだけで公開することにしたのだが、図書交換をしている機関からPDF公開の場合は、これまで交換していた雑誌を送ることができないといわれ、しかたなく急遽何部か刷ることになった経緯がある。

もう一点、これも加曽利貝塚博物館についてだが、体験プログラムを委託事業で実施されているが、委託業者の選定方法はどのように行っているのか。

神野館長 プロポーザル方式で行っている。事業者に提案を出してもらって、庁内の選定委員が採点して決めている。

島立委員 毎年何社か来るのか？

神野館長 2社くらいである。

小玉委員 郷土博物館のリニューアルで、何点か伺いたい。資料にある「デジタルともしび」の製作について、ともしびと詩集は毎年国語主任が各担任に呼びかけて子どもたちが作品を作っているが、それを集めて冊子にして、学校とその家庭との往復で終わってしまっている。それがこのように外部の施設で展示してもらえるとより関心が広がってよいと思う。小中学生の作品をどのくらい過去の分まで閲覧できるのかをお聞きしたい。あと、常設展示のリニューアルということで、前号の「教育だより千葉」に郷土博物館のリニューアルの様子がイラスト等で掲載されていたが、子供たちの体験コーナーもできるということであった。小学校では3年生で千葉市、4年生は千葉県について勉強するが、子供たちが体験できるコーナーがあるのであれば、校外学習のコースなどに入れられるとよいと思っている。どのような体験コーナーなのか。また、本校だと3クラスで80人くらい子どもがいるのだが、そういう子供たちが校外学習で回ることができるスペースなのかをお聞きしたい。

天野館長 「デジタルともしび」は全体で21作品を4つのテーマに分けて見ることができるものである。来館者がテーマを選ぶとそれに関連した作文を見ることができる仕組みになっている。特に埋め立ての時期の子供たちの寂

しい思いとか、遊んでいた場所が埋め立てられてしまう不安な気持ちなどが表れている作品がある。他にも、喘息の話とか、お父さんが夜勤で川鉄の工場で働いていて、その明かりが見えて、あそこで働いているんだと思っっている話もある。当時の千葉市の国語科の先生方は、時代を見る目、社会を見る目という作品をたくさん残してくれている。そうしたものは子供たちに書けといってもすぐ書けるものではないと思うので、おそらくそこに意図があって、社会を見て、なにか感じるところはないかと問いかけていたと思う。今の子どもたちに、自分たちと同じ年の当時の子どもたちが感じていたことを知ってほしいという思いが私たちにはある。これは千葉市が誇るべき、展示の1つになるのではないかと考えている。

あともう1つ、体験コーナーについてだが、今、子どもたちがわかるような言葉で説明をすることを基本にキャプションを書いている。基本的には中学レベル以上がわかるような文章で作っている。実際にはもっと幅広い年齢の人々が見るので、さすがに小学校にまでレベルを落とすとかえってわかりにくくなる。したがって小学生たちが見学してわかるような小学生向けのプログラムを別に作らなければいけないと考えている。それはこれからエドゥケーターと相談して作っていかねばいけない。

また、我々も実は大いに懸念しているが、もともと博物館ではないところを博物館として使っている関係で、一度に150人くらいが来て、みんなが体験できるとか展示を見られるかという、なかなか難しい。小グループで回りながら見るとか、工夫が必要なので、その辺りの見学のノウハウみたいなものもこちらから、提示できるようなこともしていかなければいけないと考えている。

また、1階のラウンジ内に子どもたちを対象とした「見方発見ラウンジ」というものを作ることになっている。ここでは自分たちの身近なことから、歴史を見ていくと、深い学びにつながることを発見できるコーナーとなる。その切り口になるのは給食なのだが、戦後と高度経済成長と最近のもの比べて、何が違うのかを見比べながら、それを資料から読み取ってみるといった構成である。これによって、小学生が歴史をつまらないと感じることを少しでも解消したいと思っている。非常に限られたスペースではあるが、子どもたちが楽しめて勉強になる、深い意味で楽しかったという体験ができるような施設にするよう準備を進めている。

齋木部長

これまでは展示を見るだけということが多かったが、見るだけではなく体験できるようにしようということである。しかし体験といってもなかなかスペースにも限りがあるので、スマホを使ってQRコードを読み取ってさらにより深く知るとか、そうしたことも含めて、趣向を凝らした展示のリニューアルをしている。これは新加曾利貝塚博物館にも言えることで、見るだけではない展示を意識して展示構成を考えている。

小玉委員 体験することによって学習がより深まると思うので、楽しみにしている。

鈴木委員 加曽利貝塚博物館については「かそりーぬ」というキャラクターが前からいる。かなり人気のあるゆるキャラの一種だが、今どのような扱いになっているのか。新博物館にも継続されるのか。また、権利関係とか、もし自由に使えるようになっているのであればそれについても説明してほしい。一般には人気があるので、経営上も非常に重要なツールだと思う。

神野館長 「かそりーぬ」は当館でも重要なキャラクターとして位置づけているので、機会があるごとに必ず活用するようにしている。特に縄文春まつりや秋まつりには必ず現れることになっている。このように「かそりーぬ」は要請があれば、申請は必要だが、各種イベント等にも出張している。また、そのキャラクターを使う場合も、申請すれば使うことは可能となっている。これは新博物館にも当然引き継がれる形になる。権利は千葉市が持っている。

鈴木委員 保育園などには「チーバ君」が遊びにくる。「かそりーぬ」であればそういうこともできるだろうし、積極的にそういうことができるということアピールしてはどうか。また、物販について、グッズはあると思うが、入手できる場所がわからないとも聞いているので、特に新博物館ではグッズの開発に力を入れるとよいのではないかと。ロットでないと作れないということもあり、多量の在庫を抱える恐れもあるが、新博物館の開館という機会であれば、品物により販売数も見込めると思うので、積極的に検討してはどうかと思う。

あと、郷土博物館で「ニューズレター」や「千葉いまむかし」などの出版物を送っていただいているが、これは、デジタルで見られたりするのかな。

芦田副館長 「ニューズレター」については、デジタルでも公開している。「千葉いまむかし」は販売をしている関係で、デジタルでの公開は行っていない。ただし、残部がなくなって現在販売していないものについては、一部デジタルで公開をしているものもある。

鈴木委員 どちらに掲載されていたか覚えていないが、この「千葉城」と呼ばれる建物がなぜ造られたのかということが書かれた記事があって、それは結構貴重な情報であった。今後いつでも見られる形になっていたほうがよいと思った。販売であればやむを得ないと思うが、後々残るようにしてもらえればと思う。そうした特定の事柄についての話はネットを調べても出てこないなので、アーカイブ化を進めてもらえるとよいと思う。

天野館長 今の千葉城の話は「ニューズレター」に出ているので、デジタル公開さ

れている。そこには書いていないことだが、この建物をつくるきっかけは、高度経済成長期の千葉港の整備とも関わっている。千葉港が整備されて国際交易港になったときに入ってくる外国船の目印となるものとして、建てられたということだ。当時の宮内三郎市長が、ここが千葉だと分かるようなシンボルになるものが欲しいということを書いて、こうなると聞いている。当時はコンクリートの城を各地に建てる風潮もあったのだが、そうしたことも、当時の市長は意図していたと聞いている。

あと、先ほどのキャラクターについてだが、リニューアル後の博物館にもキャラクターが登場する。ただ、立体物ではなく平面だが、「千葉介さん」という人と、あと今回は陸と海の結節点ということで、陸の象徴として「のまおくん」。海の象徴として「きさごちゃん」というキャラクターがいて、この3人の狂言回しがいろいろなところに登場してくる。先ほどの給食のところでも、狂言回しの3人が進めていくことになっている。平面なので、どこか出かけていくということはないが、スマホで読み取って、そこにそのキャラクターが出てきて解説をしたり、5階では一緒に記念撮影をすることもできる。

広田委員

今、新博物館の平米単価を計算していたのだが、これは展示物を含めての工事費ということか。建物だけで何パーセントぐらいアップで考えたのか。今、全体では170%弱になっているが、前回160%で断念したということで、巷では今200%を超えているところもある。先日、日経アーキテクチュアに習志野市の件で、野村不動産が一時中断というニュースが出ていた。あそこまで行くと多分再開は相当に難しいと思う。今回、DBOでやるときに、落札しなかったらここまでは行こうというものを内々に持っているが、ゼネコンにヒアリングしても、ゼネコン自身がどういう形で入れるかを掴めないでいる状態である。公開できる範囲でよいので、どういう手段で企業を捕まえようとしているのか。また、展示物と建設の比率というのは、まず建物を作ることが重要なのか、中身の展示物が重要なのかということでもあると思うが、そのスタンスを教えてください。

蚊谷室長

122億の内訳として、これはあくまでも予算を作成するときのものだが、既存の小倉浄化センターの建物の解体費なども入った数字であるが、設計建設で90億円を想定している。これはDBO事業なので、実際に事業者がどのような内訳で提案してくるか、我々がどのような提案と契約するのは事業者提案によるので、今申し上げた金額はあくまでも予算をつくる際の想定である。

広田委員

それは発注するときに、考えている想定費用を公開した上でプロポーザルを行うのか。

- 蚊谷室長 入札公告の際に示すかしないかについては、メリット、デメリットがある。内訳を示すことによって自由度がなくなるという面もあることから、こちらから積極的に示すかどうかについてはこれから選定するアドバイザーと相談したいと考えている。前回の令和5年度のときは87億円の事業費の内、60億円を設計・建設。27億円を維持管理運営という形で示している。
- 広田委員 前は要求条件をだいぶ詰めていたと思うが、プロポーザルの場合、後でそこまで設定されていなかったとなるのが弱点なので、行政側の考える建物と展示物の比率の基準をしっかりと示す方が、プロポーザルの場合は重要になってくると思う。要求条件をしっかりと出したほうが良いと思う。
- 齋木部長 今度こそ不調に陥らないようにしなくてはいけない。今回、事業者ともヒアリングを重ねながら予算の見積もりを出して、ようやく予算が確保できた。これから契約までの間に実勢価格との乖離が少しずつ広がっていくことも想定されるので、そこをどのように埋めていくかを今検討している。
- 広田委員 今、本校でも校舎の設計事務所と打ち合わせに入っているが、220%超えている。我々が入らずに事務方が協議していたのだが、そういうせめぎ合いは、最初の発注方式で間違ってしまうと取り返しがつかない。それこそ、分離発注で行くって言ったら、分離発注で行くしかなくなってしまう。今回DBOでいくということなので、その辺の示し方、運営の範囲と建設費とはしっかり明確にして、さっき鉄骨かどうかという話もあったが、その辺をしっかりとつかんで発注すべきだと考える。
- 川尻委員長 私は建設等には詳しくないが、延床面積が4800㎡から4000㎡になったことは、建築費が高騰しているなかで仕方がないことだとは思いますが、それがさらに縮小しないでほしいと思う。ここの線は譲れないっていうものを持っている方がよいと思う。
- 齋木部長 展示の部分は死守しようと考えていて、それ以外のところはある程度事業者提案を受け入れていこうと思っている。そうでないと、再び事業者の入札参加がされない。
- 川尻委員長 ただ、バックヤードは非常に重要なところで、表には見えないが、ある意味博物館活動の根本部分なので、そこはたいへん重要なところである。そういう面もご留意いただきたい。
- 広田委員 最近見たところで、前回話したかもしれないが、長野の県立美術館は非

常によくできていて、展示のある部分だけ RC で作っている。考え方やプロポーザルの出し方も斬新なので、参考になるのではないと思う。設計は宮崎浩建築設計事務所だったか、宮崎浩アソシエイツだったかもしれない。

蚊谷室長 調べておく。

川尻委員長 もう1つは郷土博物館なのだが、多分、今展示解説文作成が大変な時期だと思う。私も経験あるのでわかるのだが、最終的にだれか1人の目で見ることが必要である。各個人で時代ごとに作ると思うのだが、なかなかうまくいかないことが出てきて、後になってから、ここ失敗したというのが出てくる。そうしたこともあるので、誰か、あるいは何人かでウェブで全体を見るってような過程を踏んだほうがよい。

それからもう1つ、サイン計画も今の段階で決めておくことが非常に重要だと思う。動線確保の問題を一度検討願いたい。

天野館長 動線については、ダイナミックラインというもので、動線を明瞭にしている。解説文については、各時代のリーダーの人たちと、我々が集まって、読み合わせすることを何度もやっている。統一性が取れることが一番大事だと思っている。

川尻委員長 他になければ、これまで各委員から出されたことを十分に踏まえて次年度の計画事業を進めてほしい。それでは次に、その他について、事務局から何かあるか。

議事(2)その他

< 説明 >

文化財課から博物館の新規登録について説明した。

< 質疑応答等 >

川尻委員長 ただいま事務局から説明があったが、委員から質問があったらお願いしたい。

鈴木委員 動物園の博物館登録に関しては、全国で何例目か。

森本補佐 千葉市の動物公園は3例目で、現在は6施設が登録している。

鈴木委員 旭川の旭山動物園は登録されているのか。

森本補佐 旭山動物園は改正後、最初の登録博物館となっている。

鈴木委員 助成金は出ないが、色々なメリットがあるということで、よいことだと思う。評価されることだと思うのでアピールしてもよいと思う。特に研究面に力を入れているということはアピールになると思う。もう一つは、みなし指定施設に関してだが、千葉市美術館は、おそらく登録が可能な要件を備えていると思う。経済大の方はスタッフがそこまできているかどうか疑問だが、千葉市美術館は施設としては問題ないと思う。しかし所管が違って教育委員会ではない別の部署が所管している。その辺の、庁内での関係がどうなのかということはあるが、もし状況が可能であれば登録できればと思う。

森本補佐 千葉市美術館に関しては、すでに登録に向けた相談を受けており、今、指定施設で行くのか登録博物館にするのかを検討している状況である。我々としては、登録の要件は満たしていることを伝えているので、それも含めて検討してもらっている状況である。千葉経済大学地域経済博物館については、学芸員もおお、あとは施設の状況も踏まえて登録が妥当かどうかということについて、今後、調整しながら、検討を進めてまいりたい。

鈴木委員 登録によるメリットは大きいと思うので積極的に進めてもらえればと思う。

川尻委員長 その他に何かあるか。

天野館長 次回の令和7年度の第1回協議会の日程については、8月下旬を予定している。後日日程調整の連絡をさせていただくのでよろしくお願いしたい。

齋木部長 次回までに千葉市美術館の登録について状況の報告ができるようにします。

川尻委員長 その他に何かあるか。無いようなので、以上で本日の議事を終了する。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館

TEL 043-222-8231